

令和7年度組織目標

部局名	知事公室
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○知事・副知事のマネジメントと発信を支える機能強化</p> <p>知事、副知事の指示を的確に庁内各部局に伝え、有機的な連携を後</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 押し出すとともに、各部局の考えや思いを届ける橋渡し役となり、トップマネジメントの円滑化に貢献する。 <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ <u>未来志向</u>や広域的視点を大切にしながら、きめ細かな情報収集や社会の動向等を把握し、知事、副知事への情報提供を行うことにより、知事の判断、発信をサポートする。
	<p>○県民の共感と信頼に繋がる応答性を備えた広聴・広報の実践</p> <p>AI技術の活用にも挑戦しながら、子どもを含む県民の声を広く収</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 集し、施策へ反映・発信することにより、県政への県民の理解・信頼・共感・参画を促進し、満足度の向上を図る。 <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 万博、国スポ・障スポというビッグイベントは本県の魅力発信、成長の好機であるため、発信力の最大化を図るとともに、このレガシーを引き継ぎ、<u>県民の笑顔を広げる</u>。
	<p>○南海トラフ地震等を想定した災害対応力の強化</p> <p>市町、関係機関、協定締結団体・企業等とともに、「滋賀県防災対策の推進に関する条例」に基づく取組を検討し、早期の具体化を図る。</p> <p>県民</p> <p>他府県で起きた災害や本県の過去の災害を教訓に、市町・関係機関</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 等とともに訓練・研修・啓発に不断に取り組むことで、自助・共助・公助の力を高め、<u>県民の暮らしを守る</u>。
	<p>○CO₂ネットゼロに向けた取組の推進</p> <p>協議資料のペーパーレス化の徹底</p> <p>目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 業務見直しや計画的な業務執行に伴う時間外勤務縮減によるエネルギー消費量の削減

所属名	秘書課
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○庁内各所属と知事との橋渡し役の徹底</p> <p>目標： 知事の思いや考えを各所属に的確に伝えるとともに、職員の声を知事に届けることで、全ての職員のモチベーションアップを図りながら、事業の効率的な実施や施策の目出し等につなげる。</p>
	<p>○知事・副知事の政策判断を的確にサポート</p> <p>目標： 関西万博や国スポ・障スポ大会の開催年であることから、例年以上に部局横断、部局連携を意識するとともに、関西広域連合長としての広域的な視点を持ちながら情報収集を行い、知事・副知事へ適時・適切な情報提供を行う。</p>
	<p>○【見直し・効率化】業務の省力化、効率化</p> <p>目標： 知事協議等のエントリーにかかる業務の効率化を図る。</p>

所属名	広報課
R7年度に特に注力する事項 (目標)	<p>○滋賀県広報戦略に基づく広聴・広報の実践</p> <p>◇ より伝わる広報の実践により、県民の県政の情報発信に対する満足度を向上させる。</p> <p>目標： ◇ 広報効果の把握と各所属の施策結果へ積極的に関与する。</p> <p>◇ AIも活用し、応答性の向上や県民ニーズの把握・見える化をより一層推進し、広聴・広報サイクルを実現する。</p>
	<p>○魅力ページの作成と次期HP構築の着実な推進</p> <p>◇ 国スポ・障スポの開催による本県への興味・関心の高まりを先取りし、現行HPに新たに本県の魅力を集約して発信するページを作成する。</p> <p>目標： ◇ 次期HPの構築にあたり、各フェーズにおいて、議会や庁内に共有し、見える化を図ることにより、全庁一丸となって、誰もが利用しやすく、探しやすく、職員にとっても使いやすいHPを実現する。</p>
	<p>○びわ湖放送の自立的経営に向けた積極的関与</p> <p>◇ 2033年の姿を実現するための、2024年度から始まる三カ年計画「びわ湖放送中期経営計画」の進捗を分析、評価し、改善すべき点を提案する。</p> <p>目標： ◇ 全国の地域独立放送局の経営状況や他府県の関与状況等について情報収集する。</p>
	<p>○【見直し・効率化】庁内SNSの整理・集約化</p> <p>目標： 庁内において多数存在するSNSアカウントを整理・集約することにより、発信力を強化する。</p>

所属名	防災危機管理局
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○「滋賀県防災対策の推進に関する条例」の周知と具体施策の推進・充実</p> <p>◇ 県民意識調査等の結果に基づき、属性に応じた自助の定着を促す啓発や広報の実施により、防災の日常化を実現する。</p> <p>目標：</p> <p>市町の計画する訓練に合わせてリエゾンの訓練を実施し、平時から顔の見える関係を築くとともに、全庁職員を対象とする研修を進めるなど条例の趣旨を具体化した施策を推進・充実する。</p>
	<p>○各種団体や関係機関との連携強化</p> <p>事前防災対策の実効性を確保するため、南海トラフ地震等を想定した総合防災訓練（令和8年2月）をはじめとする各種訓練を実施し、関係自治体や民間企業・団体との連携に取り組む。</p> <p>各市町・関係機関と協力して令和9年度から本格運用する次期防災情報システムの構築を進め、発災時における災害情報の迅速な収集・共有を目指す。</p>
	<p>○原子力防災の再点検と実効性向上</p> <p>目標：</p> <p>原発再稼働の現状を鑑みて避難計画の再点検を進めるとともに、令和6年能登半島地震の教訓を踏まえて孤立時の対応計画を見直し、原子力防災体制の実効性向上を図る。</p>

局内室名	危機管理室
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○県民の安全・安心を支える防災情報システム構築の推進</p> <p>目標： 「個別システムとの連携」や「SNS等を活用した情報収集」、「誰にとってもわかりやすい情報発信」をめざし、7月に次期防災情報システムの実施設計を完了、調達準備を経て第4四半期からシステム構築を進める。（R9.4.1運用開始）</p>
	<p>○感染症有事に備えた対策の実効性向上</p> <p>目標： 感染症有事に際して迅速に対処するため、7月に県行動計画を改定し、マニュアル案を策定するとともに、「感染症を考える月間（11月）」を目途に訓練を行い、その結果も踏まえて年度内にマニュアルの見直しを完了する。</p>
	<p>○【見直し・効率化】DXを活用した業務の省力化・効率化</p> <p>目標： 宿日直当番表を作成するシステムを構築し、業務の効率化を実現する。</p>

局内室名	防災対策室
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○生き延びるための事前防災の推進</p> <p>県民意識調査の結果を踏まえ、属性に応じた自助を促し、防災の日</p> <p>◇ 常化を進めるための取組を可能なものから進めるとともに、年度上半期をめぐりに次年度に向けた啓発事業を検討する。</p> <p>目標：</p> <p>大規模地震発生時における電気を起因とする火災を未然に防止するため、家庭における感震ブレーカーの普及を推進し、県民による自助の取組を促進する。</p>
	<p>○消防団員の確保を通じた地域防災力の充実強化</p> <p>機能別消防団員制度について、導入市町を増加させるとともに、当</p> <p>◇ 該制度への県民の理解を高めるため、各種媒体やイベント等を通じて消防団活動の魅力を発信する。</p> <p>目標：</p> <p>若者や子どもに消防団活動への関心を持ってもらえるよう、大学の</p> <p>◇ 取組や学校の防災教育、子ども向けイベントと連携した啓発活動を行う。</p>
	<p>○大規模災害に対する防災力の充実強化</p> <p>防災・減災対策の実効性を確保するため、南海トラフ地震等を想定</p> <p>◇ した総合防災訓練（令和8年2月）を実施するとともに、関係自治体や民間企業・団体との連携に取り組む。</p> <p>目標：</p> <p>災害対応能力の向上を図るため、全庁職員を対象とした研修や市町</p> <p>◇ 支援に従事するリエゾン向けの訓練等（2回程度）を実施し、防災の人づくりを推進する。</p> <p>◇ 災害時における要配慮者全員の個別避難計画が作成されるよう、引き続き市町への伴走支援を行う。</p>
	<p>○【見直し・効率化】防災DXの推進による業務の効率化</p> <p>分散している防災に関する情報（防災ポータル、土木防災情報システム、ロードネット滋賀）を集約し、さらにマイタイムライン作成機能を搭載した「滋賀県防災アプリ」を開発し、令和7年度末に完成する。また、県民にとって分かりやすく、いざという時に役立つ避難タイミングのプッシュ通知や避難ルートの表示といった機能等を充実させ、一人ひとりに合わせた避難行動を促す防災意識向上の普及啓発を進める。</p> <p>目標：</p>

局内室名	原子力防災室
R7年度に特に注力する事項（目標）	<p>○ 直近の動きを踏まえた原子力防災の再点検</p> <p>目標： 福島第一原子力発電所事故を契機に構築した原子力防災体制について、原発が再稼働している現状を鑑み、以下の訓練等を通じて再点検を行い、避難計画の実効性を向上する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浮栈橋を活用した港以外での旅客船乗降訓練 ・図上訓練等による鉄道会社との連携訓練 ・バス避難できない者への対応方法の立案・訓練
	<p>○ 孤立地域における原子力防災の実効性向上</p> <p>目標： 令和6年能登半島地震の教訓を踏まえ、原子力防災体制の実効性を向上する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・孤立のおそれのある地域における、屋内退避長期化を想定した資機材整備方針（時期、品目）を固める。 ・図上訓練等により、道路啓開関係機関との連携体制を確認する。
	<p>○ 【見直し・効率化】ペーパーレス協議による業務の効率化</p> <p>目標： 協議資料の電子データによる共有や即時修正などにより、協議に係る準備時間や回数を削減する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則、ペーパーレス協議の実施割合 100%